



「市民まちづくり会議」の役割

第1次五泉市総合計画後期基本計画(平成24~28年度)の策定にあたり、市民の意見を反映させるため「市民まちづくり会議」が組織されました。会議では、前期基本計画について、進捗状況の確認や改善点などの協議を行いました。

これらの意見を踏まえて作成された計画案は、総合計画審議会等を経て後期基本計画として策定されます。



検討のあしあと 全5回の会議の検討内容と出された意見の一部を紹介します。

第1回

新市誕生から5年間のまちづくりをふりかえって (H23.9.30)

検討内容: 5年間で「良くなった点」、「悪くなった(変わらない)点」

出された意見
全74件

良くなった点

- ・夜間診療機関の設置
- ・福祉サービスの増加
- ・公共バスの運行
- ・自校式給食の実施
- ・施設の充実



悪くなった(変わらない)点

- ・地域医療の不足
- ・子育てサークルの減少
- ・商工業の衰退
- ・人口の減少
- ・アピールするイベント、施設の不足



委嘱書の交付



第1回の様子

第2回

重点課題を改善する方法 (H23.10.13/H23.10.26)

第3回

検討内容: 市民意識調査の結果から浮かび上がった9つの重点課題に関する問題点の掘り下げと改善策、実行にあたっての役割分担

出された意見
全147件

問題点の改善策

- ・男性高齢者向けの会合の企画
- ・産科の早期開院
- ・町内ぐるみの除雪+防災体制づくり
- ・ニット産業・農業・観光との連携
- ・若年層の起業支援
- ・産官学民連携による雇用促進
- ・工業団地に福祉施設の誘致
- ・情報公開の推進・工夫

役割分担

- ・ボランティア意識の向上(市民)
- ・受入れ情報の発信(事業者)
- ・ま〜まカフェを拠点として賑わいづくり(事業者・行政)
- ・地元農産物やニットの地産地消、PRの推進(事業者・市民)
- ・農商工+福祉の計画推進(行政)
- ・防災マップの作成・周知(行政・市民)



第2回の様子



第3回の様子

市に投げかけ(120件)

→ 市による計画素案の作成



投げかけシート



後期基本計画策定シート

第4回

後期基本計画への意見反映 (H23.12.16/H23.12.20)

第5回

検討内容: 協議内容が反映された計画素案の内容の確認・共有・補足、周知策

出された意見
全27件

計画素案に対する補足意見など

- ・「老人クラブ」の名称変更
- ・高齢者の匠の技の活用
- ・障がい者雇用に関して保護者の支援策
- ・ふれあいバスの利用促進



- ・空き店舗に関する行政と事業者の協働対策
- ・農家と行政一体の帛乙女ブランドのPR
- ・弱者の医療対策の推進
- ・農商工連携の場と機会づくり
- ・市各課の枠を越えたソフト支援策



第4回の様子



第5回の様子

計画案の完成

総合計画審議会等

五泉市総合計画
後期基本計画の策定



委員の皆さんの会議の感想と、市政に関心を持ってもらう方法

会議に出席された委員の皆さんから会議の感想をお聞きました。

また、多くの市民が今回検討した総合計画をはじめ市政に関心を持ってもらう方法についても考えてもらいました。



会議を通じて思ったこと……………

- 市民まちづくり会議の企画は非常に重要で適正であった。市政の情報公開をしながら市民の要望、ニーズを把握することは今後ともいろいろな局面でやって欲しい。
- 合併時の計画実現に向かったまちづくりをしていただきたい。子どもを大切に、五泉市民の宝を教育していきたいし、地域でも協力する。
- 将来に向け市民が力をつけるべきで、今まで行政に頼ってあたり前を考え直す時。それを総合計画にどう反映させるかは思いつかない。次世代行動計画や男女共同参画計画とも密に連携が必要だと感じる。
- 市民の意識改革が一番でしょうが難しい。今回市民まちづくり会議に参加させて頂き、関心も強くなった。
- 話し合いの中で出された疑問点に市職員の方々が親身に対応して下さった。子どもはいかに知らない事が多いが気付かされた。会の進め方も学ばせてもらった。
- 会議に参加して、非常に広い分野にわたって様々な分野の方が短時間で話し合うといった、スケジュール的に厳しいものであると感じた。
- 全5回で議論するには時間がなさすぎた。まだまだ薄っぺらな様な気がする。市民まちづくり会議に参加できてとても良かった。
- 会議に学識経験者の方々も交えたら一層良かったのではないかな。

市政に関心を持ってもらうために必要なこと

- 広報が大切である。市民まちづくり会議ニュースの配布、ホームページへの掲載、広報紙への情報提供など、まずPRすることが大切であるとする。写真や表、グラフ等イラストを盛り込み、分かりやすさを前面に出す。若い人たちから読んでもらえるような工夫をしていく。アイデアを出していく。
- 子どもからお年寄りの目にふれる紙面として広報や新聞折込みなど。五泉市の水色封筒に簡単なPRを印刷すると、郵送案内のたびにPRできる。
- 広報とホームページでお知らせすると同時に、ダイジェスト版を配布する。今回の委員は各団体の方々へ解説、周知させる。今後、進捗状況のチェックも市民委員にさせるべき。
- インターネットの利用は最小限に。要約版等を区長会でよく説明し、各家庭に配布する。例えば60歳以上の市民にアンケートを実施し、それを反映していく。個人個人も市政に興味をもつ必要がある。
- 市政に対して第三者のチェック機能を確立する。
- 一般市民の議会への参画、党派を超えた議論が必要で、興味をひくのではないかな。
- 役所の人々が、テーマを決め町内単位程度で出前説明を行う。学生単位のまちづくり会議の開催も有効。
- 専門分野の代表が集まり、その専門の分野について意見を出してもらう。会議で話し合った内容が計画案に反映されることで会議への参加意義が実感できる。そうしたことが会議や市政への参加意欲につながる。



今後に向けて

市政の要である総合計画に関して、市民まちづくり会議をはじめとして市民の意向を踏まえて検討してきたように、今後のまちづくりの様々な局面においても、市民との協働により検討・実践・評価を積み重ねていくことが大切です。

